

シリーズ「たぶんかきょうせい ちい多文化共生とせかいとし かな小さな世界都市を語るシンポジウム」会議録

かいめ 3回目
テーマ「がいこくじんじゅうみん み外国人住民から見たいいたしもいな飯田下伊那

ちいき はたら く
～ この地域は働きやすい？暮らしやすい？ ～



飯田国際交流推進協会

H30. 2. 25 13:30～16:00

いいたしやくしょ かいがいぎしつ
於：飯田市役所3階会議室

佐藤 健 飯田副市長

本日のテーマは「外国人住民から見た飯田下伊那～この地域は働きやすい？暮らしやすい～」ということで、パネルディスカッションでどのような発言が飛び出すか内心ドキドキしている。ぜひ率直な意見を聞かせていただき、私たちにできることは時間をかけてでも取り組みたいと思っている。

「小さな世界都市」というのは何もみんながペラペラと英語を喋れるということではなく、いろいろな方が暮らしやすく住みやすい地域を目指すこと。ここで生まれ育った方も、外から来られた方も、また障害のある方も、老若男女皆幸せに暮らせる場所になるとよい。

今日のシンポジウムが素晴らしいものになりますよう、ご挨拶とさせていただきます。

第1部 講演

きぎょう
『企業からのおはなし』

いいたせいみつつかぶしきがいしゃ えいぎょうかしまだ つよし
飯田精密株式会社 営業課 島田 剛 さん

弊社が取り組んでいる、タイ人の技能実習生の働き方や暮らし方を企業紹介とともにお話しさせていただきたい。

～飯田精密株式会社の紹介～

【グループ会社】

アップルハイテック株式会社（本社工場）

株式会社テクトリー（青森工場）

lida Seimitsu Thailand（タイ工場）

【その他グループ会社】

殿岡温泉ホテル湯～眠（サービス業）

lida Seimitsu Thailand で実習生を送り出し、飯田工場で受け入れを行っている。

弊社は高森町下市田の工業団地にあり、事業内容としては精密機械加工～組み立てまでを一貫して行っている。サービス業を含まない国内グループで従業員は約 130 名。旋盤加工、マシニング加工、研磨等、多数の機械を使いながら作業を行っている。

特色としては難切削材加工という、通常の方法より難しいものも加工している。また多品種小ロット生産という、大量生産ではなく少ないものを数多く扱うという生産方法をとっている。

【主な取り組み分野】

- 航空宇宙機器：ミサイル、飛行機、ロケット等の部品の製作
- 分析機器：最終的な組み立てまで含めた加工を行っている
- 医療機器：眼科、歯科等
- 半導体製造装置

～lida Seimitsu Thailand の紹介～

タイ アマタナコンの工業団地にある。業務内容は精密機械部品加工で組み立てまでは行っていない。従業員約 110 名。加工機器は旋盤、マシニングセンターで、研磨やワイヤーカットの機器は所有していない。特色としては数が 1～2 万個となる大量生産を行っている。国内だけでなく日本やフィリピンとの取引がある。

【主な取り組み分野】

- 光学機器（一眼レンズ）加工。出荷先はタイ国内、日本、フィリピン
- 医療機器：内視鏡
- オートパーツ：大型バイクの部品

実習制度について

以前までは団体監理型、現在は企業単独型と 2 種類の方法をとってきた経過がある。2014 年まで団体監理型を活用していたが、習得してもらった技術が弊社で活かされないということから、以降企業単独型とした。

タイ国内で非営利団体を通じて人を集め、実習先として飯田精密に送り出し、実習期間が終了すると飯田精密タイ工場に送り返し就労するというシステム。

3 年間実習をした後、タイ工場で働かないか、こちらで学んだ技術をタイで活かしてもらえないかと、就労あっせんをしていたが、帰国後別の会社に就職してしまい、2014 年まで 10 年間ほど実習生の受け入れをしていたが 1 名も弊社タイ工場に働いてくれる人がいなかった。そこでせっかく伝えた技術が社内で展開できないかと考え企業単独型を選択した。2015 年受け入れの第 1 期生が 2018 年 10 月に帰国予定で、これからその成果が見えてくる予定。

企業単独型なら日本の企業が海外現地工場、合併会社、子会社からの実習生を本社に呼ぶことができる。監理型だと、違う団体が人を集めて、また違うところに就職してしまうということになる。

弊社の動きとしては、lida Seimitsu Thailand が海外での派遣元、飯田精密が実習先という形となる。通常監理型だと就職はしていないので現地には給料は支

払われないが、Iida Seimitsu Thailand で雇用した人材を日本で実習させる期間中、現地でも給料を支払っている。

飯田精密で実習を終えた後、帰国しタイ工場に戻るので、習得した技術経験はタイ工場で生かされるという形。

理念

「単純労働者ではなくタイ工場の担い手として教育指導を行っている。」
このような考えのもと指導しなくては、今後タイ工場が衰弱してしまう可能性もある。

実習生に対して

[派遣前]

- 日本での生活学習
- 入国 6 か月前より現地で 160 時間以上の日本語教育。勤務時間内に日本語教師による授業

[派遣後]

- 日本に来た後も、現地工場社員として現地にも給料を支払う。在日期間中もタイ工場の雇用を継続する理由は、タイでは両親に仕送りをする習慣があるため。タイに進出して 15 年になるが、その中でタイの人々がどのような環境や状況で生活しているかを知り、雇用する際にはその知識を活かしている。
- 在日期間と同等期間はタイ工場で働くという覚書をかいてもらう。まだ実績はないのでどうなるかは未知数ではある。

[日本での生活]

- 会社の敷地内の寮に、一人一部屋貸与。近所のアパート案も出たが、実習生に負担がかからず、安全な方法を選択した。ベッド、布団、自転車など生活必需品も会社負担
- タイ出身者による生活指導。日本の礼儀や生活の違い等を指導してもらう。またタイ語での相談も受けている。
⇒その結果、事故等のトラブルは今のところ発生していない。できるだけ親身に話を聞き改善できることは改善し、コミュニケーションも大切にしている。

[安全について]

- お金を稼ぎたいので残業させてほしいという申し出があるが、入国 1 か月を過ぎないと残業はさせない。製造業（3K）なので安全教育等行っても事故は起きることはあり、日本人でもありうることであるが、日本語の理解不足による事故を防ぐため、36 協定を遵守した残業時間を設定している。日本の法律に則ってのスタイルをとっている。
- まず始めはタイ語での指導を行う。タイ赴任経験がある従業員はタイ語ができ、また 1 期生が後輩を指導するという体制をとっている。
- 工場内にタイ語表記の注意書き表示。タイ語の安全資料を使って日本のルール等を勉強してもらう。

[日本語教育の徹底]

- 1 か月目は毎日 2 時間、2 か月目は週 2 回 2 時間、その後～1 年までは週 2 時間の授業
- 実習制度の計画では 160 時間でよいとなっているが、弊社では 220 時間くらい実施している。やはり会社の担い手としては日本語が必要であると考える。

[意欲的に仕事に取り組むために]

- 日本語検定 N5～N1 に合格すると昇給
- 技能検定に合格すると昇給

[給与について]

- 日本人と同様とする。
- 日本語の授業時間も給与を支払っている。日本語の勉強も仕事である。

[その他]

外出制限や有休制限を取ってない。3 年という限られた期間なのでたくさんの経験を積んでほしい。生活指導はもちろん行っており、それを理解したうえで、自己責任の範囲で自由に行動してもらっている。

「出稼ぎではなく、技術と貴重な経験を習得し今後活躍できる人材へ」

技術だけ、日本語だけ、お金だけ、という考えもあるが、それは人間として寂しい。せつかく限られた時間しか日本にいられないのだから、安全を考慮し、自分で判断したうえで、様々なことにチャレンジし、日本の文化、考え、可能性を知り、自身のステップアップにつなげてほしい。一昨年、実習生の一人がゴールデンウィークと有休 2 日くらい使って富士登山に挑戦した。薄着で行ってしまっ失敗したとのことだったが、それも経験。あんな高い山に登れて素晴らしい体験だったとのこと。挑戦した人にしかわからないことがあり、それはその人の財産となる。そんな経験をたくさんしてほしい。

第 2 部 パネルディスカッション

◎パネリスト (50音順)

いまい
今井 アキ さん

ベトナム出身。飯田市在住。2004 年留学生として来日。仙台で専門学校に 1 年、名古屋で大学に 4 年間通う。2010 年結婚を機に来飯。現在は通訳や実習生の生活指導の仕事をしている。

ダオルイング パイリン さん

タイ出身。阿智村伍和備中原在住。2002 年来日。飯田市内の病院で介護士として勤務。

なかがわ
中川 オルガ さん

フィリピン出身。下伊那郡松川町在住。来日して 30 年。松川町にある会社

に勤務。子ども3人、現在はご主人と2人暮らし。

みやうち はるこ
宮内 治子 さん

中国出身。飯田市在住。1989年留学生として来日。公的機関で中国語通訳、高校で中国語講師をしている。保険代理店資格取得。

やまうえ
山上 セルジオ さん：

ブラジル出身。飯田市在住。1997年来日。飯田市内の会社に派遣社員として勤務。ポルトガル語、日本語の他に英語も習得。

◎コーディネーター いいたくさいこうりゅうすいしんきょうかいふくかいちよう 飯田国際交流推進協会副会長 みついし たかあき 三石 高亜樹 さん

三石コーディネーター

今回で3回目のシンポジウム。1回目は「リニアの時代と飯田下伊那の人口減少を考える」をテーマに、地元飯田市をけん引している方々にディスカッションをしていただいた。2回目は「市民が考える、地域コミュニティ・多文化共生」をテーマに公民館主事、小学校教諭、外国人を雇用する施設長、職場で活躍する外国籍の方などにお話しいただいた。1, 2回通して様々な問題が浮かび上がってきた。本日の3回目は飯田下伊那で活躍する外国籍の方々から見た飯田下伊那について、ディスカッションをしていただく。

長い方で30年当地に暮らしているが、異文化の中で生活習慣や人とのすれ違いが少なからずあったと思う。私たちが飯田下伊那（この地ばかりではないが）で多文化共生の活動を続けるなかで3つの壁があると考えます。それは「ことば」「制度」「ところ」。「ことばの壁」は、日本語を勉強したくても時間がない。多言語表示がない。日常会話ができて読み書きができない、など。「制度の壁」は、出身国で資格を持っていても日本では活かせず、単純労働にしか就けない。資格取得の機会が少ない。ごみの分別、など。「ところの壁」は、外国人のような大家族的な付き合いが日本人にはない。近所の方は良くしてくれても仲間意識はない。文化の違いへの配慮がなく、地域の役をやらされる。外国籍の子供への差別、など。

まずは飯田下伊那に住んでの苦労や、反対に良かったことを話していただきたい。

オルガさん

- 来日当時は日本語がしゃべれなかった。主人との出会いはフィリピンで、結婚して子どもが生まれ、子どもが2, 3歳の時来日して松川町に住み始めた。
- 日本語がしゃべれなかったが主人と二人での生活には困らなかった。しかし子どもたちが大きくなってきて外に出る機会が増えてくると、日本語がしゃべれないことが困ると感じるようになった。
- 当時フィリピン人のイメージがとても悪く（水商売とか）、日本語も通じ

ず、みんなが自分のことを見るので、悪口を言われていると感じた。

- 子どもの学校からの連絡帳やお便りが読めず、主人やおじいちゃんに読んでもらうのが悔しかった。母親なのに、子どものことを知りたいのに何もわからなかった。周りの目が気になって、早くフィリピンに帰りたいと思っていた。子どもにも私自身にもいじめがあった。
- 当時国際交流会があったが、食事して帰るだけのものだった。自分で何とかしないといけないと思った。今の自分は本当の自分ではないと思っていた。松川町役場に行って日本語教室を開いてほしいとお願いした。この地に住み続けたいからこそお願いだった。それが下伊那上伊那で最初の日本語教室。外国籍の友達と通った。
- 5、6年後運転免許を取得し、会話もできるようになると近所付き合いもできるようになった。いろいろな会に呼ばれ嬉しかった。
- 今は長野地方裁判所の法廷通訳や大阪で裁判員裁判の通訳もしている。
- 日本語ができない頃は日本人にいじめられたと思っていた。でもそうではなかった。自分がみんなの心を理解できなかつただけ。本当は皆私と友達になりたいと思ってくれていた。日本語ができない私が悪かった。今はとても幸せ。
- いろいろな人に支えてもらい、今では立場も心も日本人。日本人として来日した仲間たちを支えている。辛いことがあったけど、その心の壁を乗り越えたと思っている。
- 海外の方に日本の文化、日本人の心を理解してほしい。近所付き合いが苦手なのも最初だけ。自分から溶け込む努力が必要。フィリピンの人にも日本で暮らすならもっともっと日本語を勉強してほしい。出稼ぎにきたのではなく、技術と経験を積んできた。愛があるから日本に来た。

三石コーディネーター

印象的だったのは自分が自分でなくなっていたということ。しかしそんな壁を乗り越え、心が理解できるようになってきた。「今幸せ」ということで本当に良かったと思うが、その陰で大変な苦労があった。その一つは日本語ができなかったことで、自ら日本語教室を立ち上げたという素晴らしい経験をお話しいただいた。

今井さん

- 2010年から飯田市に住んでいて、言葉の壁はあまり問題なかったが、やはり最初はつらかった。結婚、妊娠したが車がなく移動ができなかった。友達もおらず、毎日家で洗濯機の音だけの中で過ごし、夕方になれば真っ暗になり悲しかった。飯田にはもう住めないと、主人が仕事中心に出て行ってしまおうかと思ったこともある。
- 出産後子育てをするにあたって、飯田は車がないと生活できないと思い、努力して運転免許を取った。だんだん行けるところも増え、県の地域共生コミュニケーター登録をしたことがきっかけでいろいろなイベントや活動に誘っていただき、わいわいサロンや和楽（日本語教室）に通い、「飯田国際交流の夕べ」でベトナムの文化を紹介したりして、今楽しくやっている。

- ・飯田は台風も来ないし地震も少ない。果物（特にシャインマスカットと市田柿）もおいしい。今通訳翻訳の仕事をしていて、子育てもできて、飯田市はいいところだと思っている。

三石コーディネーター

今井さんも都会から来られて、やはり飯田は車がないと生活ができないというデメリットを指摘された。しかしそれを克服され、免許を取得しわいわいサロンや和楽に通い楽しく生活ができるようになったということだった。

セルジオさん

- ・1997年に来日した時はすでに出稼ぎのムーブメントは過ぎていた。ブラジルは仕事が少なく、あっても低賃金。当時は結婚していてどうにか子育てしなければならず、10年以上勤めた会社を辞めて、日本に来ることはチャンスだと思って来た。
- ・両親は日本人だが会話は難しくほとんどなかった。ブラジルで育ててポルトガル語を話し、英語は興味があって勉強した。日本に来たら英語ができて日本語ができないと意味がなかった。
- ・当時、偽造免許で申請して切り替えをした人がいたため、私が日本に来た頃はブラジル人のイメージが悪くなっていた。免許センターに行ったら偽物ではと疑われたが本物と証明することができず困った。
- ・税金の制度もブラジルと違う。例えば住民税などを知らず、派遣会社からなぜそういう話がなかったのかと思う。年金についても、ブラジルだと会社に勤めれば自動的に年金や税金がひかれる。何か買うときにもすべてに州や町の税金がついているので住民税を別に払う必要がない。「住民税を収める」と言われたが、まず「収める」やり方が分からなかった。NHK料金もそう。
- ・日本語が分からなければ制度も分からず、生活ができない。知り合いに紹介してもらって和楽に通い始め、ボランティアの皆さんに日本語を教えてもらい、信頼できる友達もできた。そのおかげで税金などの制度が分かってきた。
- ・私たちブラジル人は仕事のために日本に来た。残業や休日出勤もしたくなくてもしなくてはいけない。人との付き合いや日本語の勉強はしたくてもできない。自分で教材を買って勉強を試みたりもした。
- ・結局どこへ行ってもブラジル人。現在53歳だが、外国人だからわからないでしょ、と子どものように扱われる。そこまで言わなくてもいいのに、と思う。
- ・外国人は増えてきて、日本は少子高齢化社会、出生率が低いなど、問題は大きくなっている。外国人がここに暮らしたいと思うこと、そして外国人を日本で育てることは、日本にとってチャンスだと思う。

三石コーディネーター

いろいろな問題点を出していただいたが、印象的だったのは免許の偽造を疑われたこと。日本人として恥ずかしい思い。

リーマンショック前には飯田にもブラジル人がたくさんいたが、リーマン後は減ってしまった。税金やNHK受信料の制度の問題、また外国人だからわからないだろうと決めつけられるという偏見が今でもあるということに驚いた。

パイリンさん

- 私の故郷はタイの首都バンコク。大きな街で何でもあったので、阿智村備中原に来たときは何もなくて寂しかった。出かけたくても、バス停まで歩いて30分と遠く、飯田に行くのも一苦労。
- 今の時代はインターネットがあるが、私が来日した当時はパソコンやインターネット、スマホもなく、友だちに連絡するには手紙だった。悲しくて涙が出た。
- 言葉も全くできず、わかるようになるまで時間がかかった。日本語分からないと生活できないが、勉強するにはバスに乗らないといけなくて、お母さんにバス停まで送ってもらい飯田に出て、わいわいサロンに通い始めた。英語ができる先生がいて、外国籍の友達と気持ちを共有でき、少しずつ言葉が分かるようになってきてステップアップしていくと気持ちが楽になっていった。
- 住んでいる地域の外国人は私たち親子だけ。地域のこともあるので母が参加したが、挨拶しても無視されたり、お茶に誘ってもらえなかった。母はがっかりして「2度と参加したくない」と言った。私も代わりに参加したくなくて、地域のことは一切参加しなくなった。日本人はシャイで外国人が声かけても受け入れられないのかもしれないが、初めの印象が冷たかった。
- 派遣会社で組み立てやライン検査の仕事を紹介されてやっていたが、日本語ができなくてもできるものだった。景気の悪い年があって、5、6年前から派遣会社も仕事が少なくなってしまった。そこで正社員になりたいと思い、飯田市で続けられる仕事はと考えたとき、介護をやろうと思い勉強した。しかし求職中はハローワークで連絡してもらっても、外国人だからと断られることもあった。せめて面接してから断ってほしいなと思った。今は国籍関係なく採用してもらい、理解ある職場で正社員として働いている。

三石コーディネーター

やはり車がないと生活できず、ましてやタクシーなんてお金がかかってしまう。

印象に残ったのは、初めに地域から無視をされたというところ。本当に無視だったのか、オルガさんがおっしゃったように日本語が分からなかったゆえに気持ちの理解が難しかっただけなのか分からないが、それ以降地域活動に参加しなくなってしまったということだった。日本人としては悲しいことではあるが、そういう問題もあるのだと感じた。

宮内さん

- 私は留学生として来日したが、留学生ということもあってか周りにちやほ

やされた。皆さんに支えてもらい、日本でも大丈夫という気持ちになり、今でもこうして暮らせていることに感謝している。

- 最初はおばあちゃんがいたので地域の婦人部に参加していなかったが、代替わりをして地域のことも担うようになってきた。いろいろ迷惑もかけた分、地域にも貢献していきたいと思っている。

三石コーディネーター

宮内さんはほかの方とは少し違って、留学生としてこられて周りからも大切にされたそう。中国青島出身で、こちらも都会。飯田の印象はと聞いたところ、「漢詩の世界のよう。山もあり静かでもとてもいいところだ」とおっしゃっていた。今お住いの下久堅も、決して便利な場所ではないが幸せに暮らしているとのことだった。

では、皆さんは、今お話しいただいたような問題点をどのように克服されていったのか、周りの支えはどうだったのか、具体的にお話しいただきたい。

今井さん

- 確かに最初大変だったが、免許を取ってから県内県外あちこち行けるようになり、活動の幅が広がり、簡単に言うと車さえあればどこへでも行ける。
- 子育てしながら仕事も忙しいので疲れてストレスもたまるが、日本語教室で勉強する仲間同士で、おしゃべりしたり料理をつくったりして楽しく過ごしていた。

オルガさん

- 日本語を勉強してから、いろいろな人に話しかけられるようになった。
- 私は運動が好きなので仲間とバドミントンやランニングをした。松川町にはいろいろな国の人々が住んでいるので、インターナショナルバドミントンクラブを作った。彼らには私と同じ経験をしないように日本人とバドミントンしながら日本語を覚えて、お互いの国の文化を学んだり、一緒にお料理したりしてとても楽しい。
- 帰国した友だちは皆自分の国で日本の良さ、日本人のやさしさを伝えている。私は今まで日本人に支えられてきたので、これからは私も日本人を支えられるようになりたい。

三石コーディネーター

スポーツには言葉がいらぬ。スポーツをコミュニケーションの出発点にすることはとても良いと思う。

パイリンさん

- わいわいサロンや和楽など、無料で日本語の勉強をさせてもらえるのが本当にありがたかった。もっと教室の数が増えたらよいと思う。

セルジオさん

- 見た目から日本人だと思われるので、「あれ、外国人？」ということがある。まだまだ日本語はうまくはないが、和楽の先生たちのおかげで、今日もこうしてこのような場で話をする事ができている。

三石コーディネーター

今日の話の中で、皆さん話題にされるのが「車の免許」。全員持っている

そうだが、免許を取るのにどのような苦労があったか。

オルガさん

- 日本語教室に行っている間に取った。フリガナ付きの問題集だが意味が分からず辞書で調べながら勉強した。試験は一発で合格した。苦労してませんよ！

今井さん

- 長女が4か月の時に免許を取った。子どもをおいていったので、子どもがかわいそうだった。日本で車の免許を取ったことが人生で一番苦労したことだった。2回目で合格した。問題は全部日本語だった。

セルジオさん

- 1985年にブラジルで免許を取って、車を運転していた。
- ブラジル人も色々な人がいる。日本に来て、良い日本車を見たら乗りたくてしょうがなくなり、偽造免許を作ってしまったのかもしれない。また東南アジアに行って国際免許を取り、それを日本に持ち込む人もいた。
- 免許の切り替えの申請をしようとしたら偽造を疑われ大変困ったが、やはり日本で暮らすなら免許がないと難しいと感じて、2001年にブラジルに帰国し、免許を再発行してもらった。しかし、1回だめなら2回目もだめだと言われた。しかもだめな理由というのが実は明確にはないとのこと。仕方なく篠ノ井まで行って試験を受けてやっと取れた。

パイリンさん

- セルジオさんと似ている。申請に必要なものをそろえ、JAFに翻訳してもらい持って行ったが、塩尻の免許センターの窓口の係の人がとても厳しく、とても時間がかかった。ただ運よくOKをもらい、タイ語の問題を10問ほど出され、合格した。
- 実技で教官がとても厳しかった。運転はできても日本は確認のルールがたくさんある。タイでは確認する習慣がなかった。運転のテストだけ4回受けてようやく合格した。嬉しかった。

三石コーディネーター

確かに日本の交通ルールは細かく決められている。だからこそほかの国に比べて事故が少ないのかもしれないが、外国の方にしたら大変だと思う。

宮内さん

日本で免許を取った。中国語の問題はなくすべて日本語だったが、漢字があれば何となく意味は分かる。日本語はそんなにできていない時期だったが、合格することができた。

三石コーディネーター

以前は、免許試験は日本語と英語だけだった。10年ほど前、ブラジルの方がポルトガル語で試験を受けられないかと相談に来られた。同じころ中国語で受けていたいという方もいたので、長野県日中友好協会を通じて公安に連絡をしたら、その年から中国語とポルトガル語で試験を受けられるよう

になった。

飯田市は外国人集住都市会議に参加するなど、日本の中では外国籍の皆さんに理解がある方だと思う。行政だけでなく市民レベルでも和楽やわいわいサロンなど日本語教室があり、また多言語の情報サービスもすすめられており、協会でもイベントを行うなど外国籍の皆さんには暮らしやすいと思う。しかしまだまだ不満もたくさんあると思う。

飯田市は先日人口 10 万人を切ってしまった。人口増加のために、U ターンの推進や「田舎に還ろう戦略」に取り組んでいるが、協会としてはひとつの施策として外国籍の方たちに来てもらい定住してもらおうという考えを持っている。今後飯田下伊那はどうすれば暮らしやすくなるのか、どのような魅力があれば外国籍の方に来てもらえるのか、皆さんの考えをお聞きしたい。

オルガさん

- ・飯田下伊那では外国人のために色々な活動をしてきているから、これ以上ないと思う。外国人次第。
- ・先ほど飯田精密さんの話にあった、日本語能力が上がれば給料が上がるというシステムがよい。
- ・飯田は果物が美味しい。山がとてもきれい。住みやすい。
- ・仕事についても、いろんな会社があって、人が足りない状況なので、選ばなければいくらでも仕事はある。でも若い人たちは仕事を選ぶ。そうではなくどんな仕事でも自分が努力して会社に貢献すれば高いお給料がもらえるようになる、と考えるべき。飯田下伊那は豊かで仕事もたくさんある。

三石コーディネーター

確かに飯田精密さんは色々な努力をされており、今後受け入れ側としての理想的な会社だと思う。

今井さん

- ・外国人技能実習生の生活指導をしているが、一番困っているのがベトナム語のごみカレンダー（ごみの分類の仕方）がないこと。自分で一晩かけてベトナム語に訳したが皆が理解できず、特に伊賀良は分別を間違えていると返されてしまう。ベトナム語のものをぜひ作っていただきたい。
- ・自分の経験から、外国人は転入してから 14 日以内に転入の手続きをしなければならぬが、転入の手続きの時にわいわいサロン等の日本語教室の案内をしてもらいたい。案内を頼りに日本語教室に通えば、早く友達もできるかもしれないし、日本語も上達し、生活の楽しみとなる。
- ・ハローワークで仕事を探るとき、求人ごとに外国人は採用してもらえるのかどうかを明記してもらえると、わかりやすくて助かる。

セルジオさん

- ・外国人が日本に来て暮らしやすくなるためには、日本のルール、制度を知ることからはじまる。ブラジル人として日本でいろいろ学んできたが、違いが多く、日本ではこんな種類の税金を払う等のルールを事前に知ったほうが良いと思う。払うことは当然だが飯田市はその税金を納めることによ

ってどんなサービスがあるとか、国民健康保険は高いが、払えない人や仕事ができない人のためにある、という説明を詳しくしたほうがよい。

- スウェーデンは人口が減っていた時もあったが、今は盛り返している。なぜそうなったかという、税金は高いが国民は暮らしやすい国になっている。バスや病院、年金の心配がなく暮らせる。また大学まで国が学費を出すことは日本ではありえないが、オランダやデンマークは大学まで国が出す。日本に外国人が来て暮らしてほしいということであれば、税金の問題、仕事の問題、子育ての問題に取り組むべきでは。

三石コーディネーター

全国的に少子化傾向なので、行政もそういった問題を解決しようという方向にシフトしていているように思う。また制度の説明はとても大切なことだと思う。

パイリンさん

- 車さえあれば住みやすいが、車がないと買い物行くだけでも大変。もう少しバスとか公共交通機関が充実するとよいと思う。ただ住民が少なければ利用者も少ないので、利益が出ないことを考えると難しいとは思う。
- 商業施設も小規模。
- 仕事もあるときもあるが、ハローワークに何回通っても無いときは無い。特に冬。仕事がないから人も少ないと思う。以前は飯田の町にブラジルのお店が結構あったが、今はなくなってしまった。インターネットで注文できるが・・・。仕事がないので人も減る。

宮内さん

- 交通の便がもう少し良いといいと思う。

三石コーディネーター

確かに交通の便は良くない。大都市に比べれば飯田は田舎。バス路線にしても昔は多かったが今は車社会になってしまい乗る人も減り赤字になってしまう。それでも行政としての努力の結果で今のバス路線が確保されていると思う。そうは言っても、もっと地域の人が努力をしてもっと便利になるように考えていかなければいけない問題である。

ではここで5名のパネラーの方にご質問のある方はいますか。

横田会長

地域の会合（公民館、自治体、PTA等）には参加しているか。今公民館活動に参加している人は？←2名挙手。

参加しませんかという誘いがあれば参加しやすいのではないかと。そういう声がかからないと難しいと思う。そういう誘いがあれば参加するか？

パイリンさん

興味のある活動か、自分に必要なものかを詳しく聞いてから判断し、良さそうなら1度参加してみたいと思う。

横田会長

やはり直接声をかけないと参加してもらえない。外国人の皆さんも情報が入ったらぜひイベント等に積極的に参加してもらいたい。

セルジオさん

自分が参加したいかしたくないかを選ぶことはまずない。参加できる時間があるかどうかのほうの問題。派遣社員として仕事に就くとまず残業や休日出勤できるかどうかを聞かれ、できるということが採用の条件。参加したくても仕事があればできない。

三石コーディネーター

確かに参加したくても時間がないという人も多いかもしれない。

また、今問題になっているのは、会合などで特に使われる難しい言葉。例えば「忖度」とか「代替案」など。難しい場所へ行けば行くほど難しい言葉を使いたがる。そうなると余計に参加しづらくなる。

河原副会長

今井さんにお聞きしたい。ベトナムから実習生が大勢来ているようで、今井さんも指導員として働いているそうだが、いま何人くらいの人 coming しているのか。

今井さん

- 組合には年間 100 名くらい。今現在は 40~50 名。実習生制度では年間労働時間数が 2,080 時間だと 178 時間勉強することが法律で決まっている。監理組合の講習センターが飯田市にあり、1 か月はそこで勉強するが、その後は日本全国にバラバラに派遣されていく。
- 飯田市のベトナムの世帯は 32 世帯だけ。税金も払っていないのでごみカレンダーも発行できないと言われる。最近ベトナムの実習生は私のいる監理団体だけでなく、ほかの企業にも増えてきているので、そろそろ発行していただけるとありがたい。

三石コーディネーター

ぜひパネラーの皆さんには、今後自分の国から来られる皆さんを支援する側になっていただければ、多文化共生を促進させる大きな力になると思う。

飯田下伊那にいる外国籍の皆さんの数を多いとするか少ないとするか、今だけの労働力なのか、この地に定住してもらいたいのか、そういったことを考えることが多文化共生の出発点になると思う。飯田市はその数の多少にかかわらず、「今ここに生きる外国人住民」といった認識を持ち、行政はもとより、飯田精密さんのような企業、また個人の枠を超えて、外国人住民とともに多文化共生の施策を展開していくことが必要だと思う。

当協会は行き先の見える多文化共生を目指してこれからも努力していく所存でございますので、今後ともご協力を賜りたいと思います。

長時間ありがとうございました。

河原副会長

本日はお休みのところ、またお寒い中シンポジウムに足をお運びいただきありがとうございました。

東京一極集中、首都圏以外は活力が失われていく現状の中で、人口減少の代替えとして外国人労働力に活路を求めていくというのは、大なり小なり自

然の流れかと思う。飯田に来ていただいた皆様にどのような事由があろうとも手を差し伸べていく器は、ハード面は行政であり企業でありそれぞれの専門分野になっていくと思うが、人と人との交流のソフトの面は、心のかような地域づくりであり「小さな世界都市」づくりがその根源となっており、今の土台をしっかりと磨いてレベルアップしていくことである。すなわち新しいものを求めるのではなく、今ここにきている実習生を含めて外国籍の皆さんの心にいかに寄り添えるか、そういう地域をいかにつくるかにかかっていると思っている。

私ども飯田国際交流推進協会も年に 1 回「多文化共生を考えるつどい」を開催し、検証してきている。本日は実習生の受け入れ企業を代表して飯田精密株式会社の島田さんから先進的事例の発表をしていただいた。また各国を代表してディスカッションをしていただいた皆さんにお世話になりました。今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願いいたします。

次回はいよいよ最終章となりますので、ぜひご参加ください。長時間にわたりありがとうございました。